

聖光寺本堂に似た潮音寺本堂について

茨城県潮来市所在の水雲山潮音寺本堂は、この聖光寺本堂の図面を流用し、そっくりの建物が建てられたという。
(屋根は鍔葺とはなっておらず、また上層の屋根は二軒になっており、一軒である聖光寺とは違いもある)

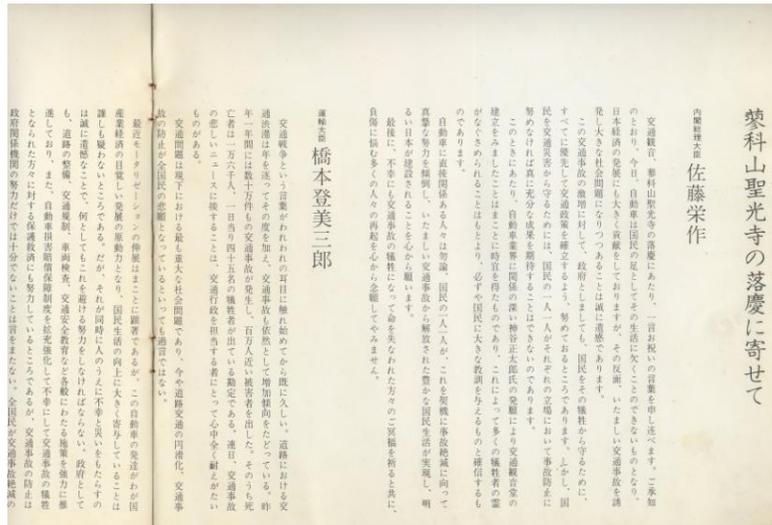


聖光寺落慶式(昭和45年)当時
運輸大臣だった橋本登美三郎
氏が千葉県に建立した
ロッキード観音であるが 聖光寺の
本堂の様しやをした(株木建設)
ものだが 後年焼失したと聞く
聖光寺設計図も無断で使用
したのであった

「昨年3月5日、橋本が暴漢に襲われたロッキード観音こと水雲山潮音寺の慈母観音」とある/右は松浦弘二のコメント

※水雲山潮音寺(茨城県潮来市)は平成23年3月11日の東日本大震災の影響で諸堂が被害を被って取り壊し等の憂き目にあったが、慈母観音(本堂)は比較的被害が少なく現在も存在する。なお、慈母観音(本堂)は鉄筋コンクリート造であり、焼失したというのは誤りのようだ。(なお、上層の屋根の形式はともかく、設計図を流用したのは間違い無いと思われるが、見てくれは同じでも建物の美しさという観点では大きな差が生じていることが、現地を訪れて実物を見てみると分かってくる。それは設計図から原寸作業を経て施工へと造りこまれる永年の文化財研究に裏打ちされた技法によるところなのであろう。

ちなみに「蓼科山聖光寺の落慶記念に寄せて」という記事の中にも橋本登三郎氏の名が見える。



次頁以下に、聖光寺本堂と潮音寺本堂の形態の相違について考察する。

潮音寺本堂

屋根は鍔葺ではない/軒の反り上がりは外柱付近からとなっている



上層は二軒になっている/上層の高欄の下部に土台が廻っている



聖光寺本堂



正面ガラスサッシの形状が違うと共に菱欄間が無い



軒反りが明らかに違う/上層の屋根の出が少ない



上層の挿肘木の出が少ない



下層の屋根と上層の屋根の縮減率が大きい



棟高を高くするために上層の屋根の勾配はきつくなっている





隅での反り上がりが急である



「ゆったりさ」に違いがあるのでは？





二軒にする必要もなかったのでは？/挿肘木の出が少ない



下層の挿肘木の形状も微妙に違う/丸桁小口を別塗装にしている





明らかに下層挿肘木も形状が違う



卍崩しも模様も微妙に違っている/壁面に貫？が一本通っている



礎石の柱からの出が小さく不格好





釘隠しが無い



お粗末な飾り金物



軒反り曲線を比較してみてね！





瓦が飛び出ている

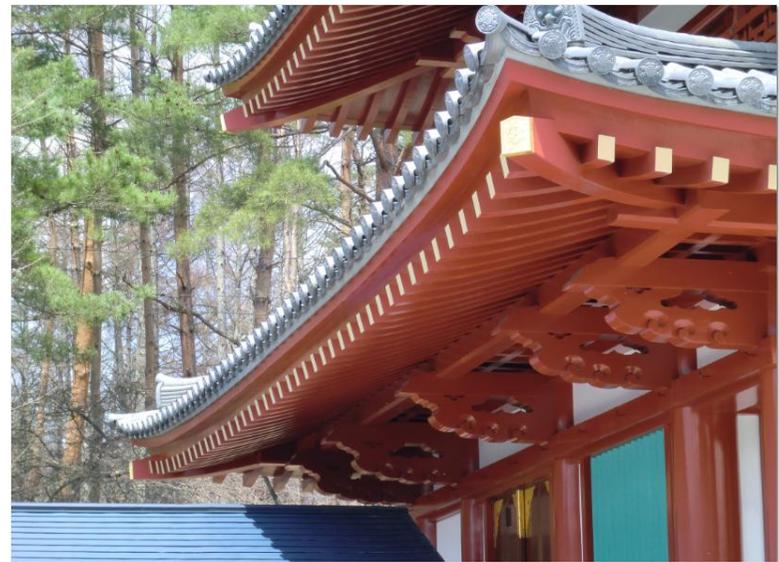


汚れが目立つ



軒反り曲線を比較してみてね！





参考(法隆寺金堂)



